

ペンギン飼育マニュアル
PENGUIN (Spheniscidae) CARE MANUAL

目次

序論 Introduction

1. 環境 Ambient Environment

2. 飼育環境デザイン Habitat Design and Containment

3. 輸送 Transport

4. 社会性 Social Environment

5. 栄養 Nutrition

6. 獣医療 Veterinary Care

7. 繁殖 Reproduction

8. 行動的管理 Behavior Management

9. プログラム Program Animals

10. 研究 Research

表：ペンギンの属、種、ステータス

属	種	英名 / 和名	USA Status	IUCN Status	AZA Status
Aptenodytes	patagonicus	king penguin キングペンギン	Not listed	Least Concern	Green SSP
Aptenodytes	forsteri	Emperor penguin エンペラーペンギン	Not listed	Least Concern	Red SSP
Eudyptes	pachyrhynchus	Fiordland penguin フィヨルドランドペンギン	Threatened	Vulnerable	
Eudyptes	robustus	Snares penguin スネアーズペンギン		Vulnerable	
Eudyptes	sclateri	Erect-crested penguin シュレーターペンギン	Threatened	Endangered	
Eudyptes	chrysocome	Southern rockhopper penguin ミナミイワトビペンギン	Threatened	Vulnerable	Green SSP
Eudyptes	moseleyi	Northern rockhopper penguin キタイワトビペンギン	Not listed	Endangered	Red SSP
Eudyptes	chrysolophus	Macaroni penguin マカロニペンギン	Not listed	Vulnerable	
Eudyptes	schelegeli	Royal penguin ロイヤルペンギン	Not listed	Vulnerable	
Eudyptula	minor	Little blue penguin コガタペンギン	Not listed	Least Concern	Yellow SSP
Pygoscelis	adeliae	Adelie penguin アデリーペンギン	Not listed	Least Concern	Green SSP
Pygoscelis	antarctica	Chinstrap penguin ヒゲペンギン	Not listed	Least Concern	Yellow SSP
Pygoscelis	papua	Gentoo penguin ジェンツーペンギン	Not listed	Least Concern	Green SSP
Megadyptes	antipodes	Yellow-eyed penguin キガシラペンギン	Threatened	Endangered	
Spheniscus	magellanicus	Magellanic penguin マゼランペンギン	Not listed	Near Threatend	Green SSP
Spheniscus	humboldti	Humboldt penguin フンボルトペンギン	Threatened	Vulnerable	Green SSP

Spheniscus	mendiculus	Galapagos penguin ガラパゴスペンギン	Endangered	Endangered	
Spheniscus	demersus	African penguin ケープペンギン	Endangered	Endangered	Green SSP

※IUCN : International Union for Conservation of Natural Resources /国際自然保護連合

- Endangered : 絶滅危惧 IB 類
- Vulnerable : 絶滅危惧 II 類
- Near Threatened : 準絶滅危惧種
- Least Concern : 軽度懸念

最新のカテゴリーではエンペラーペンギン、ロイヤルペンギンともに **Near Threatened** となっていますが、上表は元の資料を反映しています。

※AZA Status

米国の AZA (Association of Zoos & Aquariums / 動物園水族館協会) の繁殖プログラムにおいて、種によって分類された 3 カテゴリー

- Green SSP
AZA 加盟 3 施設以上で 50 頭以上飼育され、100 年もしくは 10 世代間で遺伝的多様性が 90%以上維持されている種
- Yellow SSP
AZA 加盟 3 施設以上で 50 頭以上飼育され、100 年もしくは 10 世代間で遺伝的多様性が 90%を下回る種
- Red SSP
AZA 加盟 3 施設以上で 20~49 頭飼育され、100 年もしくは 10 世代間で遺伝的多様性が 90%を下回る種

序章 Introduction

概論

このマニュアルに含まれる情報は、AZA Taxon Advisory Groups (TAGs)、Species Survival Plan Programs (SSPs)、Studbook Programs、生物学者、獣医、栄養士、繁殖生理学者、動物行動学者、研究者などの専門家から得られた知識を記しています。これらは動物飼育管理に関する最新の科学、実践、技術をベースとして、また、ペンギンの域外保全個体群の動物福祉を向上する多様な資料ともなっています。さらにこのマニュアルは少なくとも5年ごとに見直され、新たな知見がアップデートされる生きた資料なのです。

資料は、AZA 加盟施設全員に対する教育とトレーニングを目的としていて、管理方法、餌、治療、医療行為だけではなく、個体ごとや各施設の個別の状況に合致したものともなり得ます。

マニュアルの最終目標は、優れたペンギンの福祉のために、卓越したペンギン飼育管理を促すことです。究極的には、ペンギンの飼育管理の成功はAZA 加盟施設がペンギンの保全に寄与し、私たちの未来にペンギンという種を残すことにもつながります。

ペンギンは飛べない、海での生活に特化した鳥です。1年の多くを海で過ごし、繁殖と換羽のために上陸します。陸上では、ペンギンは極めて社会的で、たびたび巨大な集団になります。ペンギンの餌は魚、甲殻類、イカなどに依存し、これらの依存性は漁業や地球温暖化、オイル漏れ、海洋汚染、人間活動の影響、ハンティング、営巣場所の退行、病気といった困難に対して脆弱なことをあらわします。これらの全ての要因が、18種のペンギンの多くの個体数減少につながっているのです。

全てのペンギンの種は、南半球に広く生息しています。繁殖、産卵、巣づくりに関しては、種によって違いが見られます。もっとも大きなエンペラーペンギンやキングペンギンは卵を1個産み、巣を持つ代わりに足の上で卵をあたためます。他の種は石で巣をつくったり穴を掘った巣を持ち、2個の卵を産みます。ペンギンは通常一夫一妻で、何年も同じパートナーで巣を持つことが多いのです。

ペンギンは長生きです。野外では20歳で繁殖する個体もあり、動物園や水族館では30歳でも繁殖します。種によっては2歳から巣づくりをはじめますが、他の種は5歳まで繁殖しないこともあります。多くの種では1年に1回、適した季節に繁殖しますが、いくつかの種は繁殖の時期は決まっていません。

海での生活に適応した結果、全てのペンギンの種は形態と生理機能において類似しています。からだは流線形で、翼は泳ぐことに適しています。羽毛は防水機能を持ち、泳ぎのパ

パフォーマンスを向上させます。換羽中は防水機能を失い、換羽が終了するまで陸上でとどまることとなります。そのため、換羽中の断食に備えて、換羽前には体重を増やすことが求められるのです。羽毛は全ての種で類似しています。背面は暗色で、腹面は白色をしています。

ペンギンは、多くの時間を水中で過ごします。そのため、冷たくて清潔、そして深いプールが不可欠となります。動物園や水族館で適切なスペースが提供されていれば、“イルカ泳ぎ”のような野外で見られる行動を見せるでしょう。陸上も同様に重要です。飼育下では陸上にいる時間が多くなるので、休息や繁殖、歩くなどに適したデザインとされるべきです。

くちばしは餌生物により、大きさやかたちが多様です。野外のペンギンは、魚やイカ、オキアミなど、さまざまな海の生物を餌としています。繁殖の季節には繁殖場所近くの限られた海域で餌を捕ります。近年の研究では、データトラッカーによって重要な摂餌海域が特定できてきており、海洋生態系の保護にもつなげられているのです。

米国政府が規制する他の絶滅のおそれのある生物に比べ、ペンギンはあまり規制されていません。海外への輸出入に関しては規制されていますが、国内では規制されていないのです。